

日本組織培養学会



会員通信

第 140号

平成 30 年 8 月 30 日

発行者
* 森 一憲 (昭和大学)

* 責任者連絡先
〒142-8555
品川区旗の台1-5-8
昭和大学 薬学部 基礎薬学講座
腫瘍細胞生物学部門
TEL: 03-3784-8209
E-mail: mori@pharm.showa-u.ac.jp

目次

1. 平成 30 年度幹事会報告	2
1) 会員動向	2
2) 審議事項	2
会員資格喪失者確認	
細則改正 (休会の取扱い)	
編集委員会規定改正および編集委員選任	
細胞培養基盤教育委員会の審議事項 (新規細胞培養士、新規評議員培養士)	
第 93 回大会 (2020 年) の大会長の選出	
日本組織培養学会名誉会員の推戴	
2. 平成 29 年度会計報告	6
3. 平成 30 年度予算案	8
4. 第 92 回大会概要	10
5. 第 91 回大会を終えて	11
1) 大会長報告	11
2) 奨励賞審査結果	12
3) 奨励賞受賞者から	13
6. 各種委員会報告	15
1) 細胞培養基盤教育委員会	15
2) 情報企画委員会	15
3) 編集委員会	16
4) 細胞品質管理等普及委員会	16
5) テクニカルアーカイブ委員会	17
6) 学会運営改革委員会	17
7. 評議員名簿	18

1. 平成 30 年度幹事会報告

1) 会員動向

会員数

	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末
正会員	542名	583名	677名	692名	716名
学生会員	125名	146名	176名	184名	196名
賛助会員	20名	8名	9名	10名	12名
名誉会員	21名	21名	20名	23名	26名
寄贈会員	1名	1名	1名	1名	1名
計	709名	759名	883名	910名	951名

	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末
退会・逝去	865名	898名	942名	997名	1037名
休会	11名	11名	11名	12名	14名
計	876名	909名	953名	1009名	1053名

年会費納入件数(納入額)

	2014.03~2015.02	2015.03~2016.02	2016.03~2017.02	2017.03~2018.02
正会員	190(1,376,000)	326(2,085,000)	326(2,292,000)	332(2,376,000)
学生会員	34(141,000)	61(213,000)	56(207,000)	49(216,000)
賛助会員	4(150,000)	7(330,000)	9(360,000)	11(390,000)
入会金	(74,000)	(147,000)	(65,000)	(84,000)
計	228(1,667,000)	394(2,775,000)	391(2,924,000)	392(3,066,000)

年会費の請求案内は毎年2月末です。年会費は学会財政の基盤となる大事なものです。

ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

2) 審議事項

会員資格喪失者確認

2017年の第90回大会総会において会則の改正が承認され、会則第7条の1において会費の納入が5年以上なされなかった場合(住所不明を含む)、会員資格を喪失する条項が新たに加えられた。今回、資格喪失の対象となる会員を確認し、その会員資格喪失が承認された。また、これに伴い会員数は以下の通り減少した。

会員資格喪失対象者数

	会員数(2017年度末)	会員資格喪失者数※
正会員	718名(内休会12)	252名(内住所不明134)
学生会員	195名(内休会2)	95名(内住所不明64)

※会費未納入5年以上: ¥30,000以上(正会員)、¥15,000円以上(学生会員)

会員数（資格喪失承認後）

	残留会員数 (2017年度末まで)	新規入会者 (2018年5月末まで)	会員数 (2018年5月末)
正会員	466名	15名	481名
学生会員	100名	6名	106名
賛助会員	12名	1名	13名
名誉会員	23名	2名	25名
寄贈会員	1名	0名	1名
合計	602名	24名	626名

細則の改正（休会の取扱い）

休会に関する改正案が提出され、承認された。改正箇所について対応表として以下にまとめた。改正された会則・細則は学会 HP (<http://www.itca.net/about/>) にてご覧頂けます。

改定後	改定前
第1章 会員	第1章 会員
第1条 本会に正会員および学生会員として入会を希望する者は、学会ホームページにて提供する手続によって申し込みを行う。	第1条 本会に正会員および学生会員として入会を希望する者は、学会ホームページにて提供する手続によって申し込みを行う。
第2条 入会希望者は、上記手続の後、本部事務局の審査を受け、入会金および年会費の入金の後、会員登録が完了する。	第2条 入会希望者は、上記手続の後、本部事務局の審査を受け、入会金および年会費の入金の後、会員登録が完了する。
第3条 正会員および学生会員は、国内外留学等により一時的に所属先から離れる場合、自然災害等により一時的に学会活動の履行が困難な場合、休会を申請することができる。休会は幹事会の議決をもって承認され、休会中は会費を納入することは要せず、執行役員の実選権は有しない。会員通信並びに学会誌等の送付は停止され、大会に参加する場合は非会員扱いとされる。休会期間は最長5年とし、5年以内に復会手続きが無い場合は会員資格を喪失する。なお復会する場合は入会金の支払いを要しない。	第3条 正会員および学生会員は、国内外留学等により一時的に所属先から離れる場合、自然災害等により一時的に学会活動の履行が困難な場合、休会を申請することができる。休会は幹事会の議決をもって承認され、休会中は会費を納入することは要せず、執行役員の実選権は有しない。会員通信並びに学会誌等の送付は停止され、大会に参加する場合は非会員扱いとされる。なお休会を解除する場合は入会金の支払いは免れる。
”	”
第27条 本細則は、平成30年6月15日施行する。	第27条 本細則は、平成29年7月1日施行する。

編集委員会規定改正および編集委員選任

編集委員会より規定の改正案、および委員選任案が提出され、承認された。

改定後	改定前
<p>(総 則)</p> <p>第1条 日本組織培養学会(以下「学会」という。)に、日本組織培養学会機関誌「<u>組織培養研究</u>」編集委員会をおく。</p> <p>(構 成)</p> <p>第2条 編集委員会は、編集委員 4 名および編集委員長 1 名の計 5 名で構成する。</p> <p>2. 編集委員長は、会長が兼務する。</p> <p>3. 編集委員は、日本組織培養学会会員より幹事会の承認を受け、会長が委嘱する。</p> <p>4. 編集委員の任期は 4 年間とする。再選はこれを妨げない。</p> <p>5. 編集委員会は、「<u>組織培養研究</u>」発行に関する企画、掲載、J-Stage「<u>組織培養研究</u>」ホームページの運用に関する業務をおこなう。</p> <p>削除</p> <p>(改 廃)</p> <p>第3条 編集委員会規定の改廃は、編集委員会の議を経て、幹事会の議決により行う。</p> <p>附則 この規定は、平成 30 年 7 月 1 日より施行する。</p>	<p>(総 則)</p> <p>第1条 日本組織培養学会(以下「学会」という。)に、日本組織培養学会機関誌「<u>組織培養研究</u>」編集委員会をおく。</p> <p>(構 成)</p> <p>第2条 編集委員会は、編集委員 4 名および編集事務局委員 1 名の計 5 名で構成する。</p> <p>2. 編集委員は、日本組織培養学会会員より幹事会が推薦し、総会の承認を受け、会長が委嘱する。</p> <p>3. 編集委員の任期は 4 年間とし学会幹事選挙年度に 2 名ずつ改選する。再選はこれを妨げない。</p> <p>4. 編集委員会に、委員の互選により委員長をおく。</p> <p>5. 編集委員会は、「<u>組織培養研究</u>」発行に関する企画、掲載に関する業務をおこなう。</p> <p>(編集事務局)</p> <p>第3条 「<u>組織培養研究</u>」の編集事務をおこなうために編集事務局をきめ事務局委員をおく。</p> <p>2. 編集事務局委員は幹事会で推薦し、総会の承認を受け会長が委嘱する。</p> <p>3. 編集事務局委員は編集委員会の一員となる。</p> <p>4. 事務局委員の任期は 4 年とし、再任はこれを妨げない。</p> <p>(改 廃)</p> <p>第4条 編集委員会規定の改廃は、編集委員会および幹事会の議を経て行い、総会の承認を得なければならない。</p> <p>附則 この規定は、平成元年 4 月 1 日より施行する。</p>

編集委員長 ○ 浅香 勲 (京都大学 iPS 細胞研究所 基盤技術研究部門 教授)

編集委員 ○ 阪口 政清 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授)

○ 竹澤 俊明 (農業・食品産業技術総合研究機構 主席研究員)

○ 筒井 健夫 (日本歯科大学生命歯学部薬理学講座 教授)

○ 森 一憲 (昭和大学薬学部基礎薬学講座 講師)

細胞培養基盤教育委員会の審議事項（新規細胞培養士、新規評議員培養士）

細胞培養基盤教育委員会より、新規細胞培養士と新規評議員培養士の認定について報告があり、承認された。

第 93 回大会（2020 年）の大会長の選出

2020 年に開催予定の第 93 回大会の大会長に藤井 万紀子（広島大学）会員が選出され、承認された。

日本組織培養学会名誉会員の推戴

下記の先生を名誉会員に推戴する提案が発議され、承認された。

名誉会員：間中研一先生

2005.4-2009.3 庶務幹事

1984.4-1986.3 会員通信担当幹事

2009.4-2014.3 会長指名幹事

2009.5 第 82 回大会世話人

2008- TCRC の J-STAGE へのオンライン掲載

2002-2014 情報技術利用委員会で学会 HP リニューアルおよび管理他

名誉会員：西義介先生

2005.4-2009.3 会計幹事

1996.4-2001.3 庶務幹事，学会改革検討委員会委員長

2000 World Congress on in Vitro Biology Scientific Advisory Board 他

2. 平成 29 年度会計報告 (平成 29 年 4 月 1 日~平成 30 年 3 月 31 日)

会計幹事 林 洋平

《 一般会計 》

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
正会員会費収入	2,000,000	2,376,000	332 件
学生会員会費収入	200,000	216,000	49 件
賛助会員会費収入	300,000	390,000	11 件
入会金収入	60,000	84,000	84 件
機関誌関連収入	100,000	94,823	購読料、別刷代料、著作権使用料など
細胞培養基盤教育委員会	50,000	0	講習テキストの印税
	2,000,000	2,597,000	細胞培養基盤技術コース受講料
第 90 回大会補助金返還	0	600,000	
雑収入	50	45	普通預金利息
収入計	4,710,050	6,357,868	

【支出の部】

科目	予算額	決算額	備考
機関誌発行費	650,000	566,092	36 巻 3 号 750 部 (印刷費)
機関誌発送費	200,000	179,920	送料 511 件など
会員通信発行費	100,000	148,910	会員通信第 139 号 560 部、大会ポスター
会員通信発送費	50,000	122,960	会員通信発送費 505 件、封筒増刷
学会業務委託費	650,000	728,439	レタープレス社への業務委託費用(管理費、会費請求、機関誌組版など)
第 91 回大会補助費	600,000	600,000	
細胞培養基盤教育委員会費	200,000	195,684	委員会会合費用、認定証用紙など
講習会事業費	2,000,000	2,379,185	細胞培養技術基盤コース費用
情報企画委員会費	350,000	282,149	サーバー利用料、学会 WEB サイト修正など
テクニカルアーカイブ委員会費	100,000	62,955	勝田研月報電子ファイル化
GCCP 委員会費	100,000	0	
学会運営改革委員会費	100,000	0	
雑費	10,000	44,784	振込手数料など
支出計	5,110,000	5,311,078	
当期収支差額	-399,950	1,046,790	
前年度繰越金	5,671,630		
次年度繰越金	5,271,680	6,718,420	

◀ 特別会計 ▶

【収入の部】

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
寄付金収入	20,000	0	
雑収入	50	89	普通預金利息
第90回大会シンポジウム 費返還		500,000	
収入計	20,050	500,089	

【支出の部】

科目	予算額	決算額	備考
学会奨励賞費	140,000	140,000	奨励賞受賞者への賞金 2名
学会EPA賞費	60,000	30,000	EPA賞受賞者への賞金 1名
名誉会員記念品費	80,000	72,576	記念楯 6件
学会功労賞費	110,000	101,363	賞状、記念品
雑費	10,000	5,694	振込手数料、 郵送料
支出計	400,000	349,633	
当期収支差額	-379,950	150,456	
前年度繰越金	10,448,692		
次年度繰越金	10,068,742	10,599,148	

平成29年度の決算書類は、絵野沢 伸 会員(国立成育医療研究センター 先端医療開発室)、竹澤 俊明 会員(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門)に監査をお願いし、厳正な監査の結果、会計は適切に処理されていることを確認して頂きました。本決算書は、第91回大会総会において承認されました。

3. 平成 30 年度予算案

会計幹事 林 洋平

◀ 一般会計 ▶

【収入の部】

(単位：円)

科目	平成 30 年度予算額	平成 29 年度決算額	備考
正会員会費収入	2,100,000	2,376,000	
学生会員会費収入	210,000	216,000	
賛助会員会費収入	330,000	390,000	
入会金収入	65,000	84,000	
機関誌関連収入	90,000	94,823	購読料、著作権使用料など
講習テキスト関連収入	50,000	0	講習テキストの印税
講習会事業収入	2,400,000	2,597,000	細胞培養基盤技術コース
大会補助金返還	0	600,000	
雑収入	45	45	普通預金利息
収入計	5,245,045	6,357,868	

【支出の部】

科目	平成 30 年度予算額	平成 29 年度決算額	備考
機関誌発行費	650,000	566,092	「組織培養研究」発行費
機関誌発送費	200,000	179,920	「組織培養研究」送料
会員通信発行費	200,000	148,910	会員通信、大会ポスター
会員通信発送費	150,000	122,960	会員通信 発送料
学会業務委託費	800,000	728,439	レタープレス社への業務委託費用
大会補助費	600,000	600,000	
細胞培養基盤教育委員会費	250,000	195,684	委員会会合費用
講習会事業費	2,400,000	2,379,185	細胞培養技術基盤コース
情報企画委員会費	350,000	282,149	サーバー利用料、学会 WEB サイト修正など
テクニカルアーカイブ委員会費	100,000	62,955	
GCCP 委員会費	100,000	0	
学会運営改革委員会費	100,000	0	
雑費	50,000	44,784	振込手数料など
支出計	5,950,000	5,311,078	
当期収支差額	-704,955	1,046,790	
次年度繰越金	6,013,465	6,718,420	

◀ 特別会計 ▶

【収入の部】

(単位：円)

科目	平成 30 年度予算額	平成 29 年度決算額	備考
寄付金収入	0	0	
雑収入	80	89	普通預金利息
大会シンポジウム費返還	0	500,000	
収入計	80	500,089	

【支出の部】

科目	2018 年度予算額	2017 年度決算額	備考
学会奨励賞費	70,000	140,000	奨励賞受賞者への賞金 1名
学会 EPA 賞費	30,000	30,000	EPA 賞受賞者への賞金 1名
名誉会員記念品費	25,000	72,576	記念楯 2 件
学会功労賞費	0	101,363	
雑費	6,000	5,694	振込手数料、郵送料
日本動物実験代替法での共 催シンポジウム費学会大会	100,000		発表者旅費負担
支出計	231,000	349,633	
当期収支差額	-230,920	150,456	
次年度繰越金	10,368,228	10,599,148	

4. 第92回大会概要

テーマ：「探究心 ～細胞に誘われる未来～」

会期：2019年7月6日（土）・7月7日（日）

会場：日本歯科大学生命歯学部 100周年記念館 九段ホール

懇親会：7月6日（土）

○特別講演

- ・ 京都大学 iPS 細胞研究所 未来生命科学開拓部門 細胞制御システム工学分野
教授 齊藤 博英
- ・ 東京薬科大学
名誉教授 工藤 佳久

○公開講演

- ・ 日本歯科大学 副学長 生命歯学部発生・再生医科学講座
教授 中原 貴

○シンポジウム I 「iPS 細胞基礎・臨床研究における新展開」

- ・ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
臨床研究センター 先進医療研究開発部
部長 金村 米博
- ・ 京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門
准教授 池谷 真

○シンポジウム II 「量子技術を応用した新たな生命科学の展望」

- ・ 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 経営企画部
上席研究員 藤巻 秀
- ・ 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学研究部門
上席研究員 田口 光正

○シンポジウム III 「培養細胞の臨床応用に向けての活用」

- ・ 愛知県がんセンター研究所 副所長 兼 分子腫瘍学分野・分野長
(兼) 名古屋大学大学院医学系研究科 細胞工学講座
連携教授 関戸 好孝
- ・ 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 分子病理学
助教 坂本 直也

○日本動物実験代替法学会合同シンポジウム

- 奨励賞対象演題
- English Presentation Award
- 細胞培養基盤教育委員会主催講習会
- Graduate Students Session
- 一般発表・ポスター発表
- 総会等

5. 第91回大会を終えて

1) 大会長報告

第91回大会 大会長 山本 直樹（藤田保健衛生大学 再生医療支援推進施設）

日本組織培養学会第91回大会は、平成30年（2018年）6月15日（金）・16日（土）の2日間、梅雨の時期でしたが薄曇りの中、グローバルゲート名古屋コンベンションホール メインホール（愛知県名古屋市）にて開催いたしました。大会当日は、180名を超える方々にご参加いただき、無事盛会のうちに大会を終えることができました。これも偏に開催にあたり、お力添え賜りました学会幹事、実行委員、座長、シンポジスト、演者、会員、参加者の先生方および協賛企業の皆様のおかげでございます。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

第91回の大会テーマは、「基礎と臨床の collaboration -細胞がつなぐ研究の架け橋-」とし、一般演題（5セッション、口頭発表：18演題・展示発表：15演題）、奨励賞対象演題、Session in English、特別講演、シンポジウム（3セッション：12演題）、ランチョンセミナー（1演題）、さらに本大会では指定演題（2セッション：4演題）というセッションを設けさせていただき、多方面にわたる多彩な内容のご発表をしていただきました。

若輩者の私に、前学会会長の中村 幸夫 先生より第91回大会の大会長を拝命し、身に余る光栄に感じたことを今でも覚えております。早速、開催にあたりさまざまな準備に着手しましたが、一番悩んだ点は大会の会場でした。私の所属しております大学の立地は、最寄駅から徒歩ではかなり距離があり、大学病院も隣接していることから朝夕のバスは大変混雑いたします。宿泊施設も近隣には無いことから、やはりご参加いただく皆様のことを第一に考えて、名古屋駅から徒歩でもお越し頂ける会場を選びました。今回使用したグローバルゲート名古屋コンベンションホールは、2017年10月にオープンしたばかりの新しい施設で、今回の大会が同ホールメインホールでの初めての学会開催、こけら落としとなりました。

大会1日目の午前は、奨励賞対象演題（YIA）、Session in English（EPA）、一般演題の発表が行われ、株式会社ニコンの古江(楠田) 美保 先生より「細胞培養技術の可視化とその活用法」というテーマでランチョンセミナーが開催されました。1日目午後のシンポジウム1「細胞資源と臨床研究への応用」では、ES細胞、歯髄細胞、iPS細胞の細胞資源を用いた研究成果と細胞を用いた臨床研究について、5名の先生にまさに本大会のテーマに沿った形でご講演いただきました。引き続き、特別講演では公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 細胞療法研究開発センター長の川真田 伸 先生に「分化抵抗性のない多能性幹細胞の細胞規格とは」と題してご講演いただきました。メインホールのすぐ横の会場で18時すぎから開催された懇親会では、大会長講演ならぬ大会長公演と題して、大学職員や卒業生の有志で結成されたアンサンブルで5曲演奏をお楽しみいただき、有意義な意見交換をしていただけたのではないかと思います。

大会2日目の午前は、シンポジウム2（日本動物実験代替法学会合同シンポジウム）「in vitro

モデルの臨床・創薬開発への活用」として国立医薬品食品衛生研究所の小島 肇 先生を中心に6名の先生よりご講演いただきました。総会、昼食をはさんで午後からはシンポジウム3「細胞培養指導士講習会（細胞培養基盤教育委員会主催）」が開催され、片岡 健 委員長がご講演されました。

第91回大会企画として、「細胞の微小形態」と題した指定演題を1日目と2日目に4名の先生方に細胞の機能解析、電子顕微鏡観察、細胞の免疫染色の実験手技や臨床サンプルを用いた研究手技などについてご講演いただきました。

企業ブースには21社よりご出展いただき、ご協賛も合わせると31社よりご支援いただきました。大会のポスターデザイン、ホームページ、事前の演題エントリーシステム、PC発表システムなどは自営で行い、大会当日は運営事務局や私の研究室スタッフや本学学生で運営いたしましたので、不慣れなため何かと行き届かぬ点多々あったかと存じますが、何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

また第91回大会の開催にあたり、昭和大学の森 一憲 先生には細かな点にご配慮、お力添えいただき、改めて感謝申し上げます。会場設営においては、大会前日より間中 研一 先生にもご協力いただきました。さらに日本動物実験代替法学会合同シンポジウムの企画のみならず、学会の運営におきましても小島 肇 先生および研究室の方に多大なるお力添えを賜りました。書面をお借りして厚く御礼申し上げます。

第92回大会は日本歯科大学の筒井健夫先生が大会長として東京で開催される予定です。最後に、会員皆様の一層のご発展をお祈り申し上げますとともに、来年も皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2) 奨励賞審査結果

教育・奨励賞担当幹事 中村和昭 筒井健夫

第91回大会では奨励賞に対して1名の応募者があり、書類による事前選考の結果、藤田保健衛生大学大学院医学研究科の平松 範子氏（演題名「アレルギー研究領域における新しいツールとしてのヒト末梢血単球由来 iPS 細胞株作製の試み」）が、奨励賞候補者として大会における口頭・ポスター発表を行った。

発表演題において平松氏は、iPS 細胞由来免疫制御系細胞を用いたオーダーメイド免疫細胞療法の確立を目指し、研究に応用できる新たなツールとして、これまで市販ベクターを用いた方法では作成が困難であったヒト末梢血単球由来の iPS 細胞の作出を試み、単球をシャーレの中で細胞活性を維持したまま培養できる浮遊培養法を確立し、単球由来 iPS 細胞の作出を報告した。発表後の質疑応答では、これまで困難であったヒト末梢血単球由来の iPS 細胞の作出が可能となった技術的新規性などに関する質問がなされ、活発な質疑応答が行われた。平松氏の

口頭・ポスター発表および質問に対する対応に対して審査員による厳正な審査が行われた結果、奨励賞授与に値すると評価され、総会時に浅香勲会長より平松氏に第 91 回大会奨励賞が授与された。平松氏は第 90 回大会においても演題発表を行っており、奨励賞受賞を機に、引き続き大会での発表等を通じ本学会で活躍されることを期待したい。

奨励賞は 40 歳以下の若手研究者を対象としており、将来性ある若手研究者の研究を奨励し本学会の活性化を図ることを目的としている。本賞が若手研究者の奮起を促し、その受賞を目指して、次回の大会でも積極的な応募がなされることを期待する。

English Presentation Award (EPA) は大会長による審査にて授与される。第 91 回大会では 1 名の応募があり、山本直樹大会長により産業技術総合研究所の Sukant Garg 氏 (演題名「Integration of conventional cell viability assays- recruiting reliable and reproducible read-outs」) に授与された。Sukant Garg 氏は細胞生存率の試験法に関して十分な英語力にて口演し、またその後の質疑応答に対応し、EPA 授与に値すると評価された。

EPA は会員の国際的発信能力の増進を奨励し本学会の活性化を図ることを目的としており、年齢の制限は設けていない。国際学会での発表に向けた経験の場としても活用できると思われ、次回の大会でも積極的な応募がなされることを期待する。

本学会における若手研究者育成の観点からも、学生や若手研究者を指導される先生方におかれては、両賞への積極的な応募をご指導いただくと幸いです。

3) 奨励賞受賞者から

平松 範子 (藤田保健衛生大学 研究支援推進センター 再生医療支援推進施設)

この度は、日本組織培養学会第 91 回大会におきまして、名誉ある学会奨励賞を賜り大変光栄に存じます。本会において発表の機会を与您いただきました、学会長の浅香勲先生および日本組織培養学会の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回、「アレルギー研究領域における新しいツールとしてのヒト末梢血単球由来 iPS 細胞株作製の試み」という演題で発表させていただきました。私たちの研究室では、オーダーメイドの iPS 細胞由来免疫制御系細胞を用いた喘息などのアレルギー疾患病態制御を目指しています。本研究では、アレルギー研究に応用する新たなツールとして「ヒト末梢血単球由来 iPS 細胞」を作出したことを報告しました。特定の抗原のみに対する特異的な免疫反応を利用するリンパ球由来 iPS 細胞については多くの報告がありますが、着目した末梢血「単球」は 10 mL 程度の採血により低侵襲で十分量採取でき、DNA の不可逆的な修飾がないため、複数の抗原が原因となるアレルギー疾患を制御する免疫細胞に分化誘導するための iPS 細胞を作出する由来細胞として優れているのではないかと考えられます。しかし、単球は *in vitro* のシャーレ中でほとんど増殖せず、これまで iPS 化は困難であるとされていました。そこで単球の分離法、

培養液、前培養日数など2年にわたりさまざまな条件検討を経て、結果として必要最低限の栄養を含むシンプルな培地を用いて、単球の活性を維持できる培養法を確立し、単球由来 iPS 細胞の作出に成功しました。

今後は、単球由来 iPS 細胞から分化誘導した免疫細胞が、複数の免疫系が関与するような「アレルギーの制御」に応用できるかどうかを検討します。また、由来細胞の異なる iPS 細胞株との比較実験を実施し、単球由来 iPS 細胞の有用性を実証し、アレルギー研究の発展に少しでも貢献できればと考えています。

今回の受賞を励みに一層努力して研究に邁進いたします。本研究を行うにあたりご指導賜りました、本学呼吸器内科の今泉和良教授、近藤征史臨床教授、磯谷澄都講師をはじめとした医局の先生方、再生医療支援推進施設の山本直樹准教授に深謝いたします。

6. 各種委員会報告

1) 細胞培養基盤教育委員会

委員長 片岡 健（岡山理科大学）

日頃より本委員会の活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

平成 29 年度は細胞培養基盤技術コース I を 6 回（受講生 55 名）、コース II を 1 回（受講生 29 名）、コース III を 1 回（受講生 7 名）開催し、平成 30 年 6 月に開催された日本組織培養学会第 91 回大会で新たに 7 名の細胞培養士を認定いたしました。基盤技術コース I は特に受講希望者が多い状況が続いており、募集開始とともに応募を締め切ることもあります、本コースの受講を目的に入会された方もおられるので、できる限り多くの会員が受講できるように委員会としても努力しております。しかしながら、講習会の開催回数や受講人数にも限度がありますが、開催場所の開拓や細胞培養指導士の増員などにも尽力していますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

また本年度の活動として、細胞培養基盤技術コースの内容の見直しとともに、「細胞培養実習テキスト（じほう）」の大幅な改訂を進めております。そのためテキストの一般販売を一旦停止しており、会員の皆様へ不都合をおかけしております。これに関しましてもお詫びするとともに、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

細胞培養基盤技術コースを含む本委員会の活動へのご意見等がございましたら、委員長（片岡 kenk@dls.ous.ac.jp）までお願いいたします。

2) 情報企画委員会

委員長 森 一憲（昭和大学）

【2017 年度 活動報告】

情報企画委員会は、学会ホームページ（HP）維持管理、情報発信などを担当しています。昨年度は、学会からの発信情報を視認しやすくするため、トップページを修正しました。また、現在アーカイブス資料ページとして閲覧できる旧 HP の整理を行いました。

【2018 年度 活動計画】

今年度は、情報企画委員として峯 裕一 会員を加え、より充実した情報発信に努めてまいります。また、今年度の活動として、①サーバー選考の検討、および②J-stage オンライン投稿・査読システムの導入を計画しています。利便性向上のため、皆さまのご意見・ご要望、提案などをお寄せいただければ幸いです。

①サーバー選考の検討

テクニカルアーカイブ委員会により勝田班月報の保存が完了し、また会員通信もその全てが集まりつつあります。これら学会資料は利用者が閲覧できるコンテンツとしてホームページに掲載する予定ですが、これらを格納するサーバーは情報完全性が高く、また長く安全に維持管理できるサーバーが適切と考えています。一方、2018 年 5

月、現在利用している UMIN より、公的支援の削減や外部資金の枯渇等の理由により演題登録システムを終了する案内が届きました (2018 年度末終了)。そのサービスは安価で利便性が良いものの、その継続については見通しが立たず、終了となる可能性を否定できません。そのため、長期間にわたり安定的に運用できるよりサーバーへの移行も視野にいれ、学会用サーバーとしての妥当性を検討します。

②J-stage オンライン投稿・査読システムの導入

J-stage ではオプションサービスに投稿審査システムがあります。この導入により、投稿・審査工程の信頼性と利便性の向上が期待されます。幹事会での承認が得られたため、今年度中の導入を目指して準備を進めます。利用できる WEB アプリケーションとして、Editorial manager、ScholarOne Manuscripts があり、編集委員会と連携をとりながら、アプリケーションを決定し、システムを導入する予定です。

3) 編集委員会

委員長 浅香 勲 (京都大学 iPS 細胞研究所)

2017 年度は TCRC に 5 報の論文が受理され、J-Stage に掲載されました。現在 2 報の論文が校正中で、1 報の論文が査読中です。

また、TCRC への投稿をより活発にすることを目標に、編集委員会を再構成するため、編集委員会規定改定案作成しました。総会でご承認が得られたため、7 月より下記の 4 名の編集委員を委嘱し活動を開始しました。当初の課題として投稿規定に revise の期限についての規定が明示されていなかったため、これを明確にするよう投稿規定の改正を行いました。詳細につきましてはホームページの投稿規定をご確認ください。

●編集委員会委員改選 (委員長以外)

- 阪口 政清 (岡山大学)
- 竹澤 俊明 (農業・食品産業技術総合研究機構)
- 筒井 健夫 (日本歯科大学)
- 森 一憲 (昭和大学)

4) 細胞品質管理等普及委員会

委員長 小原 有弘 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)

活動概要 品質管理等普及委員会においては、研究に用いられる細胞株の品質管理に関して情報発信を行っております。平成 29 年度までに情報発信のためのホームページ・データベース整備を実施し、理研細胞材料開発室、東北大学加齢医学研究所・医用細胞資源センター、JCRB 細胞バンクに登録されているヒト由来細胞株の認証データのデータベース検索システムをアップデートしながら運用しています。平成 29 年には以下の情報発信を行いました。

- ① International Cell Line Authentication Committee (ICLAC)の細胞誤認リスト (Version 8.0) 更新
- ② ExPasy : Cellosaurus という細胞株に関する統合データベースサイトの紹介
論文 : <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC5945021/>
サイト : <https://web.expasy.org/cellosaurus/>
- ③ 細胞認証に関するインタビュードキュメント動画の紹介
サイト : <https://www.biocompare.com/Reproducibility/Cell-Line-Authentication/>
- ④ 細胞株のウイルス検査結果に関する論文報告
論文 : <http://rsos.royalsocietypublishing.org/content/royopensci/5/5/172472.full.pdf>

今後は世界の細胞バンクと連携した情報発信を行うとともに、細胞の利用に有用なデータベースとの連携強化を図ってまいります。

ホームページアドレス : <http://jrcbcelldata.nibiohn.go.jp/str/>

5) テクニカルアーカイブ委員会

委員長 浅香 勲 (京都大学 iPS 細胞研究所)

テクニカルアーカイブ委員会は、2017 年度に故高岡聰子先生が保管されていた本会創設者の勝田甫先生の研究班の月報を、電子化し合計 4,484 ページの PDF 資料として保存完了しました。

また勝田先生の研究班月報の保存のための電子ファイル化が完了したことを記念して、勝田班班員として長く活動された高木良三郎先生に会員通信への寄稿を依頼し、会員通信 139 号に掲載しました。

なお現在本学会の沿革や大会開催歴、会則等の改正の経緯を明確にするため、学会ホームページに未掲載の会員通信の収集を行っております。これまで間中先生のご協力により、会員通信第 1~57 号の PDF ファイルを入手できましたが、第 58~89 号がまだ不明で捜索中です。前号揃えたうえでホームページに掲載する予定ですので、不明の会員通信をお持ちの会員は執行部へご連絡いただけますようお願いいたします。

6) 学会運営改革委員会

委員長 小原 有弘 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)

活動概要 学会運営改革委員会においては、学会活動をスムーズに運営するために必要な業務改革等を進めております。平成 29 年度は検討が必要な課題の洗い出し作業と学会運営の歴史を紐解くため、会員通信の電子化に取り組んでおります。

現在会員通信 58 号から 89 号をお持ちの方を探しております。

是非とも調査にご協力ください。

7. 評議員名簿

評議員 (2018年7月現在) 70名 ** : 会長 * : 幹事

赤池 敏宏	阪口 政清	野瀬 清
** 浅香 勲	坂野 俊宏	秦 宏樹
伊井 一夫	佐藤 元信	寛山 隆
伊藤 丈洋	佐野 恵海子	* 藤井 万紀子
上田 忠佳	柴沼 質子	古江・楠田 美保
江藤 哉子	白畑 美隆	許 南浩
絵野沢 伸	鈴木 崇彦	星 宏良
大野 忠夫	関口 守正	松村 外志張
岡本 哲治	高橋 君子	間中 研一
片岡 健	田川 陽一	丸野内 棣
片野 尚子	竹内 昌男	水澤 博
菅 修平	竹内 朋代	三井 洋司
菅 幹雄	竹澤 俊明	峯 裕一
木根原 匡希	田原 栄俊	宮崎 正博
糸 昭苑	* 筒井 健夫	宮本 義孝
蔵本 博行	筒井 健機	森 一憲
樽松 美治	* 中村 和昭	安本 茂
黒木 登志夫	中村 真人	山崎 泰助
黒澤 尋	中村 幸夫	山本 直樹
* 小原 有弘	難波 正義	横尾 誠一
小山 秀機	二川 浩樹	WADHWA Renu
* 西條 薫	西 義介	

幹事 (5名)

嶋本 顕
須藤 和寛
林 洋平
松木 亨
三村 純代